

道の駅「ひなの里かつうら」周辺公園基本整備計画



令和8年6月

勝浦町総務防災課

目 次

1 計画策定の背景	1
1 - 1 .計画策定の背景と目的	1
1 - 2 .計画地の概要	1
2 計画の前提	2
2 - 1 .計画地周辺の環境状況	2
2 - 2 .課題の整理	3
3 整備の目標と方針	4
3 - 1 .整備の目標	4
3 - 2 .整備の基本方針	4
3 - 3 .整備の重点方針	4
4 基本計画	5
4 - 1 .ゾーニングプラン	5
4 - 2 .管理運営の考え方	8
5 整備事業の進め方	9
5 - 1 .事業手順	9
5 - 2 .事業スケジュール	9
6 参考資料	10
これまでの検討の経緯	10

1 計画策定の背景

1-1. 計画策定の背景と目的

勝浦町では、地域のにぎわい創出や住民の憩いの場の確保、地域の防災意識醸成等を目的として、道の駅「ひなの里かつうら」周辺に新たな公園を整備する構想を有しています。

勝浦町は、四季折々の自然や伝統文化（ひな祭り、みかん、鶴林寺など）に恵まれた地域でありながら、近年は少子高齢化の進行や地域内の交流機会の減少といった課題を抱えています。また、観光客の滞在時間の短さや、道の駅周辺の空間活用の余地も指摘されています。

こうした背景を踏まえ、本計画では「地域住民と来訪者がともに集い、交流し、安心して過ごせる場」を創出することを目的とし、日常的な散歩や休憩の場にとどまらず、地域イベントの拠点、交流の場としても機能する公園の整備を進めます。

本整備により、道の駅との連携による回遊性の向上、地域資源の魅力発信、そして多世代がともに過ごせる公共空間の創出を図り、持続可能で活用あるまちづくりの一助とすることを目指します。

1-2. 計画地の概要

計画地の概要は以下のとおりです。

名 称：道の駅「ひなの里かつうら」周辺公園（仮称）

位 置：徳島県勝浦郡勝浦町大字生名

種 別：営造物公園

計 画 面 積：約 1.5ha

2 計画の前提

2-1. 計画地周辺の環境状況

本計画地およびその周辺の現状は以下のとおりです。

- ・計画地は道の駅「ひなの里かつうら」に隣接し、観光客や地域住民の往来が多いエリアとなっています。
- ・勝浦川に近接した平坦な地形に位置し、河川沿いの開放的な景観が広がっています。
- ・周辺には農地が多く、みかん畑や季節ごとの耕作地が点在しています。
- ・ビッグひな祭りや勝浦さくら祭りなどのイベント時には、特に多くの人々が訪れて賑わいます。
- ・県道徳島上那賀線が近接し、町内外からのアクセスに優れています。

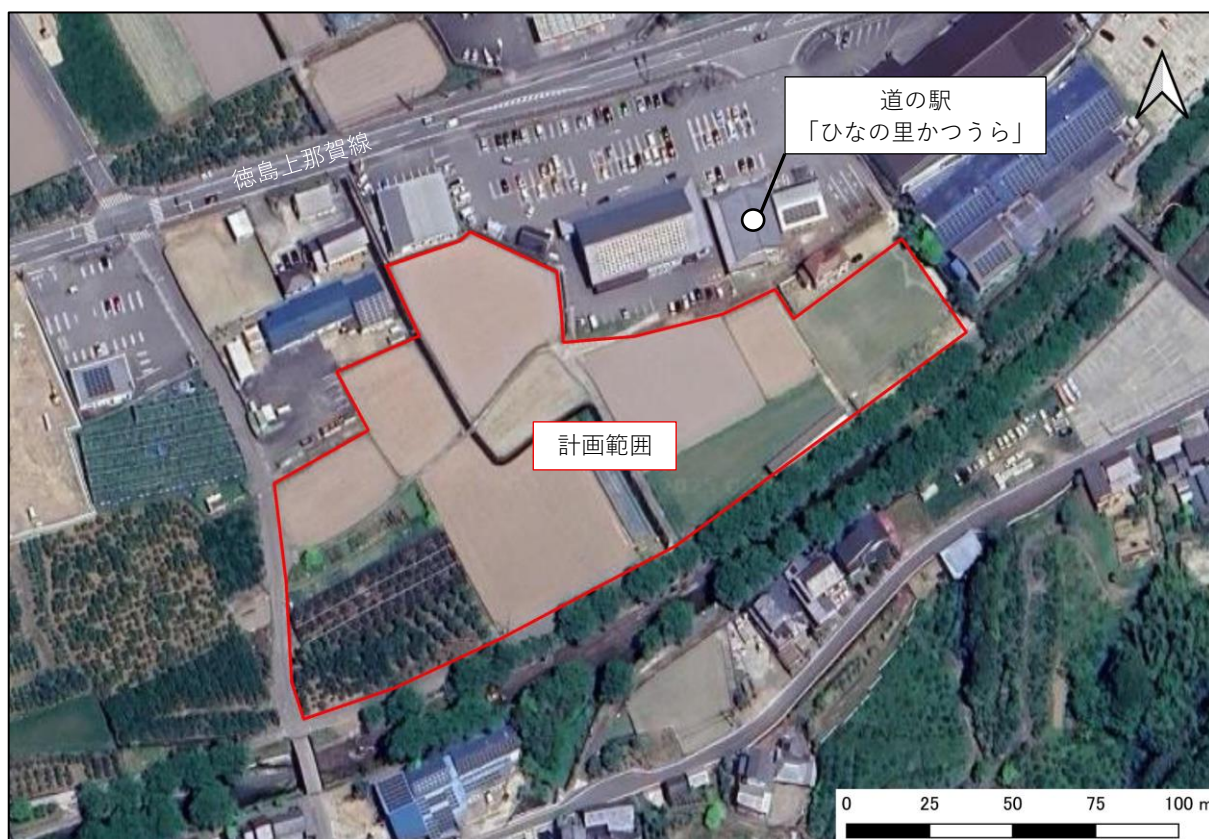


図 2-1 計画予定範囲



写真 2-1 計画地内の状況



写真 2-2 計画地南側の桜並木

2-2. 課題の整理

これまでの取り組みや計画の前提を踏まえ、計画における課題を以下のとおり整理します。

(1) 空間構成の課題

日常的な散歩や子どもの遊び場としての利用に加え、イベント開催や観光客の受け入れなど、多様な利用目的が想定されています。

駐車場の台数設定や大型車の進入動線、イベント時の混雑対応など、車両動線の整理が大きな課題となっています。特に、勝浦さくら祭りなど季節イベント時の混雑や、大型車の進入が難しいといった指摘があり、動線計画の見直しが必要です。

同時に、子どもや高齢者が安全に移動できる歩行者動線の確保、道の駅との連続性、バリアフリー対応など、歩行者の安全性を高める工夫も求められています。

多様な利用目的を調和させるためには、空間の役割分担と動線の整理が不可欠です。

(2) 基盤整備の課題

芝生広場や植栽、水辺空間、遊具など、魅力向上につながる要素が多く求められる一方で、維持管理の負担や安全性の確保が大きな課題となっています。

芝生の管理や排水対策、水辺の衛生管理、遊具の安全点検など、日常的な維持管理に必要な体制やコストを見通した計画が求められます。

また、計画地が土砂災害警戒区域および洪水浸水想定区域に位置していることから、防災拠点としての機能をどの程度備えるか、そして日常利用とのバランスをどのように取るかも重要な検討事項です。想定する利用者が子どもから高齢者まで幅広いため、見通しの確保、段差解消、夜間の防犯対策など、安全性を前提とした配置計画が求められています。

(3) 周辺環境への配慮に関する課題

大屋根施設やマルシェ広場、遊具、芝生広場など、利用頻度の高い機能が近接する場合、イベント時の混雑や音・光の影響が発生しやすく、視線や騒音防止への配慮が必要であり、公園施設の規模や配置によっては生活環境に影響を与える可能性があります。公園としての利便性と、周辺住民の生活環境との調和を図ることが重要です。

3 整備の目標と方針

3-1. 整備の目標

本計画では、道の駅「ひなの里かつうら」等と連携しながら、地域住民と来訪者が安心して集い交流し、自然や文化に親しめる場を創出することを目標とします。また、自然災害の発生に備えた防災学習の拠点とすることで、防災意識の醸成に資する公園を目指します。

3-2. 整備の基本方針

本公園整備においては、以下の基本方針に基づき、計画・設計・整備を進めます。

- (1) 「使われ活きる公園」「防災学習拠点」として整備します
- (2) 地域資源を生かし、地域連携のもと整備を進めます
- (3) 新たな価値創出や課題解決に向けたまちづくりの場として位置づけます
- (4) 現在および未来に向けて利活用する勝浦町の資産として位置付けます
- (5) 公園整備において、公園をしなやかに使いこなす仕組みを整えます
- (6) 公園整備において、担い手を広げ育てます

3-3. 整備の重点方針

(1) 「使われ活きる公園」の整備

- ・子どもから高齢者、障がいのある方や観光客など、多様な世代や属性の人々が安全・安心に利用できる空間を提供するため、バリアフリー対策やユニバーサルデザインを導入し、移動・休憩・情報取得のしやすさを確保します。
- ・子どもたちの多様な遊び方に対応する遊具や、親世代が見守りながら交流できる滞在場所の提供を目指します。
- ・道の駅や勝浦町の伝統文化と連携し、地域らしさを感じられる空間演出や、イベント展開を活かした魅力と賑わいの創出を目指します。
- ・住民参加型のイベントや活動の場を提供することで、地域コミュニティの活性化を図ります。
- ・来訪者の利便性向上のため、適切な駐車スペースの確保と配置を行い、台数に余裕をもたせた駐車場の整備、バリアフリー対応の駐車区画など地域住民だけでなく広域からの利用にも対応できる環境を整えます。

(2) 「防災学習拠点」としての整備

- ・洪水や土砂災害の想定区域に立地します。このため、防災訓練や発災時の避難行動などについて学び防災意識の向上を図る防災学習機能を持つ拠点として整備します。
- ・平時から多世代交流の公園を目指し、共助促進等の防災意識の醸成を図ります。

(3) 「育てる公園」の整備

- ・行政主体の一方的な整備ではなく、住民がワークショップなどを通じて計画段階から参画し、開園後も日常的な管理やイベント運営に関わりながら、地域とともに公園の価値を高めていく新しい形の公園づくりの整備を推進します。

4 基本計画

4-1. ゾーニングプラン

整備の基本方針を踏まえ、導入する施設等をゾーン別に下表のように設定します。

表 4-1 ゾーニング・機能・主要施設一覧

ゾーン	機能	主要施設
①広場ゾーン	広場機能	芝生広場
	緑地機能	植樹・花壇
		植樹（桜）※川側
	地域学習機能	恐竜学習（PR 場所、化石発見体験場所モニュメント展示場所 化石発掘体験場所）
	親水水辺機能	小川、せせらぎ（水路改修）
	交流レクリエーション機能	遊具（小型、遊具）
②体験交流ゾーン	交流レクリエーション機能	バーベキュー棟
		マルシェ開催場所
	緑地機能	植樹・花壇
③駐車場ゾーン A	駐車機能	駐車場（普通車・大型車）
	交流レクリエーション機能	バスケットコート
	緑地機能	植樹・花壇
共通	防災学習機能	防災用ベンチ

①広場ゾーン

公園の中心的な交流空間として位置づけ、来訪者が自由に滞在し、多様な活動を行える開放的な場として整備します。芝生広場を中心に、小型遊具・大型遊具を配置し、子どもから大人まで幅広い世代が利用できるレクリエーション空間を形成します。また、大屋根施設・ステージ設備やあずま屋を配置することで、雨天時の利用やイベント開催にも対応できる柔軟な広場機能を確保します。

②体験・交流ゾーン

地域の魅力発信や交流促進を目的とした活動拠点として整備します。バーベキュー棟やマルシェ開催スペースを設け、地域製品の販売、イベント、体験活動など、多様な交流機会を創出します。また、植樹・花壇による緑地整備を行い、滞在性を高めるとともに、道の駅利用者が気軽に立ち寄れる賑わい空間を形成します。

③駐車場ゾーン

駐車場ゾーンは、公園の主要なアクセス拠点として整備し、普通車約90台、大型車約3台の駐車スペースを確保します。舗装区分を利用形態に応じて設定し、効率的な動線計画を図ります。

④共通

公園全体の共通機能として、防災かまどベンチ等の防災関連施設を分散配置します。日常利用の中で自然に防災意識を高められるよう、さりげない防災機能を取り入れ、地域の防災拠点としての役割を担う空間づくりを進めます。

・使われ生きる交流拠点・防災学習拠点・育てる公園

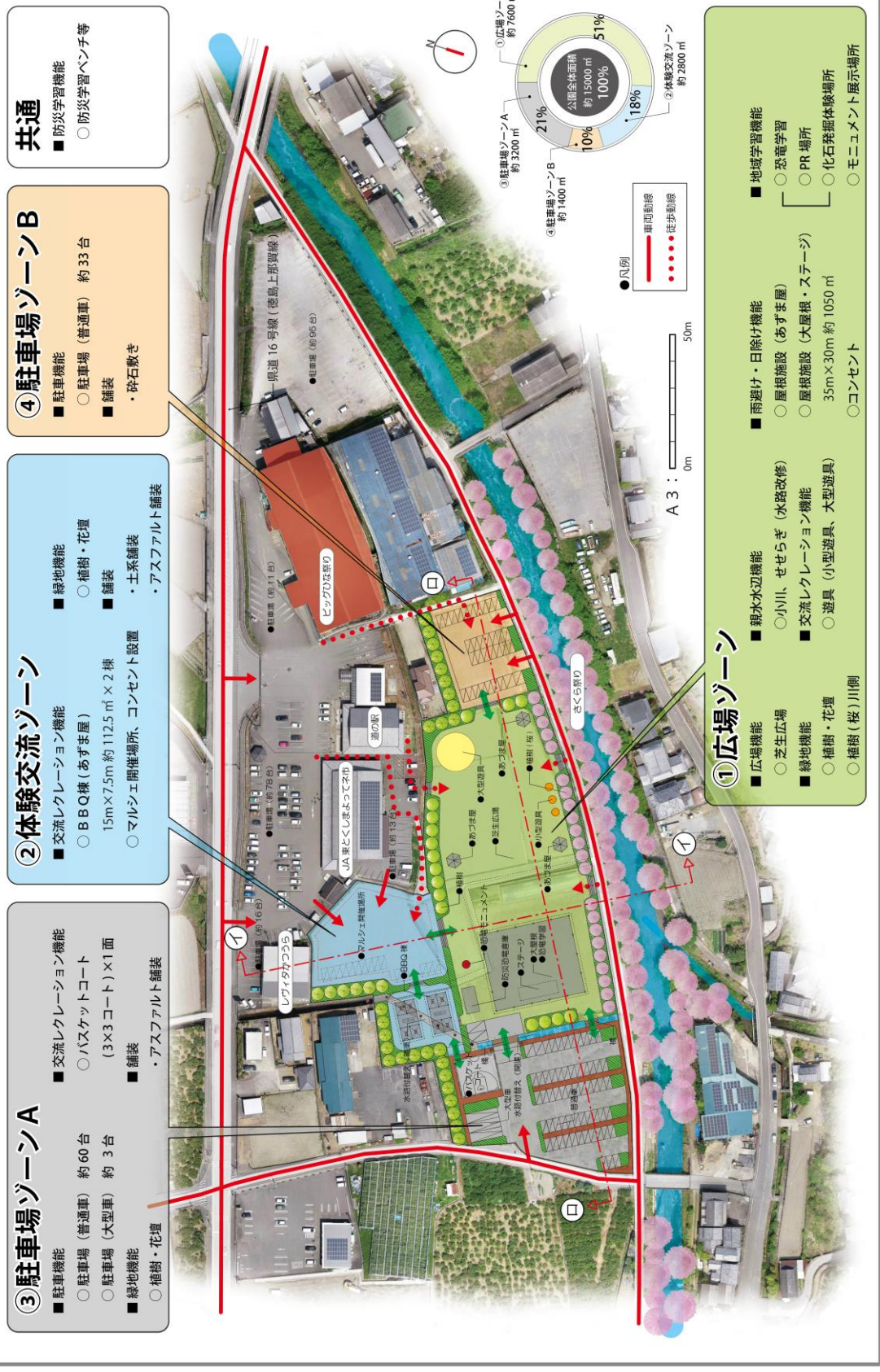


図 4-1 計画平面図

4-2. 管理運営の考え方

本公園の管理運営については、日常利用とイベント利用が両立できる環境を維持することが重要であると考えられます。地域住民の利用実態や道の駅との位置関係を踏まえ、管理運営の考え方を以下に整理します。

(1) 基本姿勢：地域に開かれた、使われ続ける公園

- ・公園が日常的に利用され、地域の暮らしに溶け込むことを目指す。
- ・道の駅との連携により、観光客・地域住民の双方が使いやすい場所をつくる。
- ・季節行事や地域文化（ひな祭り等）と親和性のある運営を意識する。

(2) 管理の方向性：安全・快適・持続性を重視

- ・日常的な清掃・点検を確実にを行い、安全性を維持する。
- ・利用状況に応じて植栽管理や施設更新を行い、快適性を保つ。
- ・道の駅のにぎわいと連携した管理体制を検討し、効率的な運営を図る。

(3) 運営の方向性：地域の力を活かす

- ・地元団体や事業者との協議により、イベントや利活用の幅を広げる。
- ・公園の魅力向上につながる活動（マルシェ、体験イベントなど）を柔軟に受け入れる。
- ・町内外の来訪者が交流できる仕組みづくりを検討する。

(4) 維持管理と利活用のバランス

- ・公園の魅力を高める利活用と、静かな環境を保つ配慮の両立を図る。
- ・道の駅利用者の動線や駐車場利用と調和した運営を行う。
- ・利用ルールをわかりやすく整理し、誰もが安心して使える環境を整える。

(5) 将来を見据えた柔軟な運営

- ・利用状況やニーズの変化に応じて、管理方法や運営内容を見直す。
- ・新しい活動やサービスの導入を検討し、持続的な魅力向上を図る。
- ・公園が地域の拠点として成長していくことを目指す。

5 整備事業の進め方

5-1. 事業手順

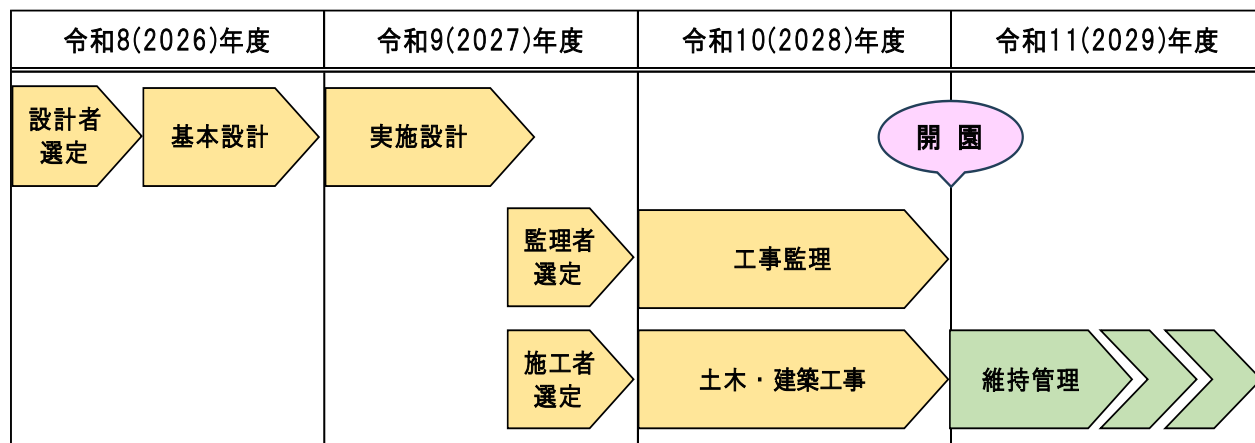
今後は、本業務で実施した現地調査や住民・関係者との意見交換、複数案の比較検討の結果を踏まえ、以下の手順により公園整備設計および建設工事を進めます。

- ・基本計画をもとに、施設配置や動線計画、ゾーニング維持管理の考え方など、計画の骨格となる内容を再確認します。
- ・実施設計では、整備内容の仕様を決定して、主要施設の整備費、外構・植栽・駐車場整備などに係る概算事業費を算定し、あわせて維持管理に必要となる費用の見通しも整理します。具体的な各施設の個別詳細設計を行い、建設工事にかかる数量や事業費を算定します。
- ・建設工事では、開園に合わせた正確な工程管理と安全で高品質な施設整備により、地域住民や来訪者が快適に利用できる公園を整備します。

5-2. 事業スケジュール

道の駅「ひなの里かつうら」周辺公園の事業スケジュールは以下のとおりです。

表5-2 事業スケジュール



参考資料

これまでの検討の経緯

本公園の整備計画にあたり、地元住民との意見交換や課題解決に向けた検討・協議を行ってきました。

① 道の駅「ひなの里かつうら」周辺公園整備計画策定に係る意見交換会

実施時期：令和7年3月21日（金） 19：00～20：30

実施場所：レヴィタかつうら 参加者 22 名

検討内容：施設の規模や配置、空間の構成の検討、おおまかな概算工事費の把握、設計や工事の工程、整備検討委員会の設置・開催

② 道の駅「ひなの里かつうら」周辺公園整備検討委員会

【第1回】

実施時期：令和7年7月9日（水） 19：00～20：30

実施場所：レヴィタかつうら 参加者数 22 名

検討内容：意見交換、公園整備基本計画について

【第2回】

実施時期：令和7年8月25日（月） 18：00～20：45

実施場所：レヴィタかつうら 参加者数 24 名

検討内容：公園整備の機能・ゾーニング・主要施設の検討について

【第3回】

実施時期：令和7年9月30日（火） 18：00～20：30

実施場所：レヴィタかつうら 参加者数 22 名

検討内容：公園整備の機能・ゾーニング・主要施設の検討について

【第4回】

実施時期：令和7年12月1日（月） 18：00～20：30

実施場所：レヴィタかつうら 参加者数 23 名

検討内容：公園整備の機能・ゾーニング・主要施設の検討について

【第5回】

実施時期：令和7年12月25日（木） 18：00～19：30

実施場所：レヴィタかつうら 参加者数 22 名

検討内容：公園整備の機能・ゾーニング・主要施設の答申について



写真 2-3 第2回策定委員会